

作成日 2003年6月23日

改定日 2019年7月23日

# 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製 品 名 : パワーアップジャパン(株) P812 デオテックグリーンシャワー

会 社 名 : パワーアップジャパン株式会社  
住 所 : 東京都世田谷区深沢1丁目9番9号  
電 話 番 号 : 03-3705-3243  
FAX 番 号 : 03-3705-3201

## 2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性／引火性エアゾール	区分1
引火性液体	区分3
自然発火性液体	区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	区分外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外
皮膚腐食性／刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性／目刺激性	区分2A
生殖細胞変異性	区分1B
生殖毒性	区分1A
標的臓器／全身毒性(単回ばく露)	区分3(麻酔作用、気道刺激性)
標的臓器／全身毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(慢性)	区分外

※記載がないものは分類対象外または分類できない

ラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性報 極めて可燃性／引火性の高いエアゾール  
遺伝性疾患のおそれ  
(気道刺激性)気道への刺激のおそれ／(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ  
極めて引火性の高い液体および蒸気  
吸入すると有害のおそれ(気体、蒸気、粉塵、ミスト)  
重篤な眼への刺激性  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
長期または反復ばく露による臓器<肝臓>の障害  
長期または反復ばく露による臓器<神経>の障害のおそれ

取扱注意 保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。

[予防策] すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。  
 加圧容器: 使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。  
 容器および受器を接地すること。  
 容器を密閉しておくこと。  
 必要に応じて個人用保護具を使用すること。  
 火災を発生しない工具を使用すること。  
 熱/火花/裸火/高温のもの(のような着火源)から遠ざけること。一禁煙。  
 ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。  
 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。  
 防爆型の電気機器/換気装置/照明装置等を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。

- [対応] ばく露または、ばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けること。  
 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。  
 火災の場合には、消火に炭酸ガス、粉末、泡、乾燥砂を使用すること。  
 皮膚(又は髪)にかかった場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと/取り除くこと。  
 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
 ばく露または、ばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けること。  
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
- [保管] 施錠してから保管すること。  
 日光から遮断し、40°Cを超える場所に暴露しないこと。  
 涼しい所/換気の良い場所で保管すること。
- [廃棄] 内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS分類に該当しない危険有害性: 特になし

- 分類 引火性液体  
 危険性 引火しやすい液体を含んでおり、蒸気は空気と一定量混合すると爆発性混合ガスとなる恐れがある。  
 有害性 エタノールは、工業的には比較的無害の溶剤と見なされるが、蒸気を吸入すると麻醉剤として働き、繰返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛などを起こす。

### 3. 組成及び成分情報(混合物・危険有害性物質を対象)

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度 (質量%)	官報公示整理 番号(化審法)	PRTR法
エタノール	64-17-5	27~37	2-202	対象外
除菌・抗菌剤	非公開	非公開	非公開	対象外
香料	非公開	非公開	非公開	対象外
LPG	74-98-6 106-97-8 75-28-5	63~73	対象外	対象外

### 4. 応急処置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所へ移動し、毛布等で保温して安静にさせ、速やかに医師の手当てを受ける。呼吸が止まっている場合または呼吸が弱い場合は衣服を緩め、気道を確保したうえで人工呼吸を、場合によっては酸素吸入を行い、直ちに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 乾いた布等で拭き取った後、付着部を石鹼水で十分に洗浄する。刺激が残るときは直ちに医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。コンタクトレンズは外す。速やかに医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合 : 口の中に残ったものは取り除き、ただちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消 化 剤 : 水、粉末、二酸化炭素、泡などの一般消化剤が使用できる。
- 使ってはならない消化剤 : 情報なし
- 消 火 方 法 : 消火剤を使用して消火する。保護具を着用する。散水により容器を冷却する。
- 消化を行う者の保護 : 高温によるエアゾール缶の破裂に注意する。  
周辺火災の場合は速やかに安全な場所に移す。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 保護具を着用する。漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 保護具及び緊急時措置
- 環境に関する注意事項 : 雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。
- 封じ込め及び浄化 : スクイジーなどを用いてできる限りは空容器などに回収する。回収した跡、または回収できないものは、多量の水で洗い流す。
- 方法及び機材

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取 扱 い 上 の 注 意 :
  - ・火気厳禁。ストーブの近くや高熱が発生する所では絶対に使用しない。
  - ・人体に使用しない。皮膚、眼、着衣等への接触回避。
  - ・蒸気吸入回避。
  - ・容器の切断及び穴あけ厳禁。
  - ・火中投入厳禁。
  - ・締め切った部屋で大量に使用しない。必ず換気すること。
  - ・商品の取り扱い方法に従って正しく使用すること。
  - ・取り扱い後の洗眼、うがい及び手洗い励行。

- 保 管 上 の 注 意 :
  - ①容器はたてて保管する。
  - ②容器は直射日光を避け、低温で換気の良い場所に保管する。
  - ③容器は乾燥した場所に保管し、湿気や水滴等による腐食を防止する。
  - ④容器は、車内(座席・ダッシュボード・トランク等)、火気、暖房器具(ストーブ・ファンヒーター等)の近く等、40℃以上となる所に置かないこと。
  - ⑤容器は、転倒等による衝撃及びバルブの損傷を防止する措置を講ずる。
  - ⑥熱、火花、炎が近くにならないこと。
  - ⑦幼児の手の届かないところに保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

暴 露 限 界 値

成分名	管理濃度(安衛法)	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
エタノール	設定されていない	設定されていない	設定されていない	1000ppm
LPG	ブタン	ブタン 500ppm	設定されていない	設定されていない

- 設 備 対 策 : 排気装置を付けて蒸気が滞留しないようにする。  
取扱い場所の近くには高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。  
屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置などにより作業者がばく露から避けられるような設備とすること。  
取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

- 保 護 具 : 保護具:保護マスク、ゴム手袋、保護メガネ、ゴム長靴、保護衣。

9. 物理的及び化学的性質

外観	無色透明
臭気	微臭
沸点	データなし
融点	データなし
揮発点	データなし
蒸気圧	データなし
比重又は高比重	原液:0.8(20℃) LPG: 0.56(25℃)
初留点	該当せず
水への溶解度	難溶
その他	データなし
引火点	エタノールとして: -13℃以下(密閉式) LPG: -104.4 ~ -73.8℃
発火点	エタノールとして: 439℃ LPG: 405 ~ 550℃
爆発範囲 下限/上限	原液: データなし LPG: 下限: 1.8% 上限: 9.5%
可燃性	あり
その他	特になし

10. 安定性及び反応性

反 応 性 : 酸性物質と反応し中和熱を発生する。エアゾール缶は酸性物質との接触により腐食する。

化 学 性 安 定 性 : 通常の取扱い条件(屋内、常温)においては安定である。

危険有害反応可能性 : データなし

避 け る べ き 条 件 : 酸性物質との接触、火気、熱源の付近、直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態

混 触 危 険 物 質 : 特になし

危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	使用原料の加算式判定の結果により、区分外とした。
急性毒性(経皮)	データなし
急性毒性(吸入:ガス)	データなし
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし
急性毒性(吸入:粉じん・ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	データなし
目に対する重篤な損傷/眼刺激性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分2Aとした。
呼吸器感作性/皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分1Aとした。
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分3とした。
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分1、区分2とした。
吸引性呼吸器有害性	データなし
その他	特になし

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性(急性)	使用原料の加算式判定の結果により、区分外とした。
	水生環境有害性(長期間)	使用原料の加算式判定の結果により、区分外とした。
残留性・分解性		データなし

生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他	特になし

### 13. 廃棄上の注意

火中投入厳禁。火気のない戸外で、噴射音が消えるまでボタンを押し完全にガスを抜いてから、各自治体の指示に従い捨てること。  
まとまった数量の本数を廃棄する場合は、ガス抜きを行い、内容物と分別した上で、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

### 14. 輸送上の注意

#### 国際規制

国連番号 : 1950  
品名 : エアゾール  
容器等級 : 該当しない  
海洋汚染物質 : 該当しない

#### 国内法規制

: 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。  
消防法  
高圧ガス保安法  
危険物船舶運送及び貯蔵規則

#### 輸送の特定の安全対策及び条件:

容器の破損、漏れがないことを確かめ、衝撃、転倒、落下破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行い、輸送中は直射日光を避ける。  
火気厳禁。高温回避(40℃以上)。  
輸出:エアゾール用の指定表示を要する。

### 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法 : 該当しない  
PRTR法 : 該当しない  
労働安全衛生法 通知対象物 : 第61号 エタノール  
第482号 ブタン  
表示物質 : 第61号 エタノール  
第482号 ブタン  
有機則 : 該当しない  
特化則 : 該当しない  
消防法 : 危険物第四類アルコール類 危険等級Ⅱ  
高圧ガス保安法 : エアゾール製品(適用除外)  
危険物船舶運送及び貯蔵規則 : エアゾール  
海洋汚染防止法 : バラ積み輸送されない製品のため対象外  
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 産業廃棄物

### 16. その他

引用文献 : 原液 SDS  
液化石油ガス SDS

記載内容の取扱い : 記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですから特別な扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱いください。危険性有害性の情報は必ずしも十分とは言えませんので、本SDS以外の資料や情報も十分にご確認の上、ご利用くださいますようお願いいたします。